

一般質問



岩井 明 議員

国民健康保険 広域化への対策は？

Q 平成30年度からの国民健康保険の広域化による事業運営の見通しは？

A 宮口町長

都道府県が財政運営の責任主体となり、市町村と一体となって事業運営する新制度へ移行する。均衡のとれた国民健康保険事業の運営となるよう努めたい。

Q 北海道は、広域化後の標準税率を示し、モデルケースにおいて本町の保険料は今年度比28・6%上昇との試算を発表した。低所得者の保険料への対策を講じるべき

では？
A 宮口町長
保険料の税率は各市町村が任意で設定できる。本町の保険料率は高くなると推測するが、国においては低所得者への更なる軽減措置の検討もされている。動向を注視しながら低所得者の保険料上昇を抑制するよう検討していきたい。



平成30年度から広域化となる国民健康保険



相澤 昌幸 議員

十勝川河畔林の除去に対する関係機関への要請は？

Q 十勝川河畔林の除去に関する要請に対する町の対応は？

A 宮口町長

町内3団体から連名による要望書を受け、帯広開発建設部池田河川事務所へ十勝川の抜本的な治水対策の検討と、高水敷の掘削、河



大雨により増水した十勝川

畔林の除去等を要望した。河川事務所は、要望事項に理解を示し、改善に努めるとの話をいただいた。また、国の災害復旧事業として、幌岡地先の十勝川において河道掘削を行う予算が付いた。今後、関係機関への要請を行っていききたい。
Q 十勝川河畔林の伐採により、流下能力が向上し、堤防決壊の防止につながるかと考えるが？
A 宮口町長
河畔林の伐採は、増水の抑制とともに、流木の減少により海の環境整備にもつながると考えている。今後も、前向きに努力していきたい。



坂口 尚示 議員

町税の減免措置は？

Q 台風被害を受けた農家への税の減免の検討状況は？

A 宮口町長

十勝管内では、農作物被害に対して税の減免条例等を制定しているのは、検討中を含め、十勝西部の町を中心に6町ある。そのような状況を踏まえ検討してきたが、町内の農業被害面積、農業共済による共済金補償が見込まれることなどを総合的に考え、減免措置はとらないこととした。

台風被害により納税が困難となった方に対しては、納税を1年間猶予する徴収猶予制度や分割納付制度の活用により対応していきたい。

Q 共済金が補償される場合、税の減免にはならないのか？

A 宮口町長

減免措置を実施する基準は、災害による減収額が3年間平均所得の30%以上の場合となっている。共済金が補償される場合、その額は減収額から差し引くため、減免

十勝川の床下げと排水機能の強化対策は？

Q 十勝川の川底の床下げと排水施設の機能強化を国、北海道へ要請する考えは？

A 宮口町長

本年11月、十勝川治水促進期成会が、国に被災箇所早期復旧と抜本的な治水対策の推進等を十勝一丸となって要望した。また町は、高水敷の掘削、河畔林の伐採とともに排水機場等の整備について毎年要請している。

これからも本町の実情を関係機関に要請していきたい。



機能強化が求められる排水施設

Q 排水施設の機能強化の必要性をどのように考えているか？

A 宮口町長

排水施設の機能強化は必要であり、関係機関へ要請をしている。これからも要請を続けていきたい。

Q 排水施設の稼働を今より低水位から可能とするなど、運用面の改善を要請できないか？

A 宮口町長

局地的な異常気象への対応などの面から、池田河川事務所に要請していきたい。



小笠原 茂人 議員

豊頃医院の後任医師は？

Q 来年度着任する後任医師との契約状況は？

A 宮口町長

来年度からの豊頃医院、大津診療所の診療を引き受けた医師は、現在宮城県気仙沼市の大島医院院長である山本馨先生。年齢は71歳。本年9月、来町した際に診療業務期間を来年4月から平成34年3月までの5年間とする確約書をいただいた。山本先生からは、更に5年間の契約更新や、診療時間の延長、時間外診療の受付等のお話をいただいており、新年度の診療開始までに検討していきたい。

Q 現医師との交代時期、医師の交代に伴う準備期間など今後の病院運営の予定は？

A 宮口町長

医師の交代時に豊頃医院の改修をするため一時休診となるが、町民に迷惑のかからないよう努めたい。

まちづくりの評価と今後は？

Q 3期12年のまちづくりへの評価と今後の思いは？

A 宮口町長

第4次豊頃町まちづくり総合計画は順調に進んでいると考えている。また、地方創生総合戦略では人口減少対策が重要な課題となっている。与えられた残りの期間全力投球したい。



第4次まちづくり総合計画

Q 次期町長選への出馬は？

A 宮口町長

体力、思考力には限界があり、町政の進展にブレーキをかけてはならないと考えている。その一方で、後援会からの要請を強く感じている。